

国内実態調査報告書

テーマ : 地域社会の持続・活性化
ゼミ名 : 平澤 哲 ゼミ
調査日 : 2024年9月10日(火)～9月13日(金)
調査先 : 石川県加賀市の「東谷地区」及び「大聖寺地区」
授業科目名 : 演習Ⅰ
参加学生数 : 9名(3年生)

調査の趣旨(目的)

歴史的な建造物や景観・町並みを保存・保全することを目的とする「重要伝統的建造物群保存地区」である石川県加賀市の「東谷地区」と、古民家が街中に残る「大聖寺地区」を対象にフィールド調査を実施し、地域社会の持続・活性化や古民家再生による街づくりの実態を明らかにします。こうしたフィールド調査の経験を通じて、社会的課題の解決のみならず、定性的な調査方法の技法を学ぶことを目的とします。

調査結果

3泊4日間の全日程を使って、フィールド調査を行い、現地の実状を把握することに力を注ぎました。第一には、東谷地区の4つの集落(杉水・荒谷・今立・大土)を全て訪問し、その土地に生まれ育ち、集落持続のために活動を展開されている方々や、そうした考えに共鳴し、協力されてきている方々のお話を伺いました。一方、この地域に新しく移り住まれ、工芸品の技術継承や発展に尽力をされている方や宿泊業を始めようとされている若い移住者のお話も伺うことができました。限界集落の中に、こんなにも多様な方々が住まれているということに驚きを感じるとともに、古民家を活かした新しい地域文化が生まれてきているような印象を持ちました。第二に、加賀市大聖寺地区の古民家を活かした街作りについて、中心的な役割を担ってきた加賀市役所の方々、建築家、事業家のお話を伺いました。古民家は、地域の歴史や特徴を象徴する貴重な文化資源である一方で、それを政策的に保存することや再活用のために改修していく際の難しさも学ぶことができました。今回の調査では、立場や背景の異なる方々にインタビューをすることができ、地域社会の持続や活性化についても様々な発想があることを学びました。3年生にとっては、インタビューや観察といったデータ収集の技法を学ぶための貴重な機会となりました。今回の調査で収集したデータを帰納的に分析することにより、地域社会の持続・活性化や街づくりについて新しい発見や示唆を導き出せるように研究を進めていきます。